

平成 22 年国勢調査

従業地・通学地集計結果の概要（高知県）

—人口・産業等集計—

平成 22 年 10 月 1 日現在

・常住人口(夜間人口)764,456 人

・昼間人口(従業地・通学地による人口)763,479 人

昼夜間人口比率 99.9% (昼間人口／常住人口)

平成 22 年 10 月 1 日現在で実施された「平成 22 年国勢調査」の従業地・通学地集計結果が 6 月 26 日に総務省統計局から公表されました。

<従業地・通学地集計>

就業者や通学者の住居と仕事先あるいは通学先との日々の移動の実態を明らかにし、通勤・通学人口の大きさ、市区町村の人口の流れ、各市区町村の昼間人口などを把握するためのものです。

従業地・通学地集計の今後の公表予定

- ・職業等集計（従業地による就業者の職業別構成）……………平成 25 年 3 月
- ・抽出詳細集計（従業地による就業者の産業、職業別構成）…平成 25 年 10 月

目 次

1. 常住人口及び昼間人口	1
2. 就業者・通学者人口	2
3. 利用交通手段*	4
*10年ごとに集計される項目です。	
<参考> 全国の状況	5

別表

別表 1 昼間人口、常住人口及び昼夜間人口比率（平成 17 年・平成 22 年	6
別表 2 常住地による従業地、年齢、男女別 15 歳以上就業者の割合	7
別表 3 常住地又は従業地による産業（大分類）別 15 歳以上就業者数	8

・常住人口(夜間人口)

普段住んでいる常住地による人口であり、国勢調査時の 10 月 1 日に調査地域に常住している人口となっています。「昼間人口」と対比する意味で「夜間人口」とも言います。

・昼間人口(従業地・通学地による人口)

常住人口に通勤・通学に伴う人口の流入・流出を加除した人口で、従業地・通学地集計の結果を用いて次により算出された人口です。「従業地・通学地による人口」とも言います。

[例：A市の昼間人口の算出方法]

$$\boxed{\text{A市の昼間人口} = \text{A市の常住人口(夜間人口)} - \text{A市からの流出口} + \text{A市への流入人口}}$$

したがって、夜間勤務の人、夜間学校に通っている人も便宜、昼間勤務、昼間通学とみなして昼間人口に含んでいます。ただし、この昼間人口には、買物客などの非定常的な移動は考慮していません。

・昼夜間人口比率

次により算出された比率です。

$$\boxed{\text{A市の昼夜間人口比率} = (\text{A市の昼間人口} / \text{A市の夜間人口}) \times 100}$$

したがって、100 を超えているときは昼間人口が常住人口を上回ること（通勤・通学人口の流入超過）を示し、100 を下回っているときは流出超過を示しています。

1. 常住人口及び昼間人口

本県の常住人口が764,456人であるのに対し昼間人口は763,479人で977人少なくなっています。

昼夜間人口比率は99.9%です。

前回調査（平成17年）と比較すると、常住人口で31,836人、昼間人口で31,630人減少しています。昼夜間人口比率は99.9%と横ばいです。

表1-1 常住人口(夜間人口)及び昼間人口の増減・昼夜間人口比率(平成17年・22年)

区分	常住人口(夜間人口)(A)		増減数 (H22-17)	昼間人口(B)		増減数 (H22-17)	昼夜間人口比率(B/A)×100	
	平成17年	平成22年		平成17年	平成22年		平成17年	平成22年
高知県	796,292	764,456	△ 31,836	795,109	763,479	△ 31,630	99.9	99.9

<市町村の状況>

(1) 昼間人口

○昼間人口が常住人口を超えるのは13市町村で、差が最も大きいのは高知市の9,824人

表1-2 市町村別昼間人口差(人)

順位	1位	2位	3位	4位	5位	～	30位	31位	32位	33位	34位
市町村名	高知市	南国市	四万十市	須崎市	宿毛市		黒潮町	佐川町	土佐市	いの町	香南市
昼間人口差	9,824	2,744	1,145	925	527		△ 1,251	△ 1,504	△ 1,868	△ 3,346	△ 4,036

○前回調査と比べ、昼間人口の増加したのは香南市のみ（207人）となっています。また増加率は表1-3のとおりとなっています。

表1-3 市町村別昼間人口の増加率(上位5市町村)(%)

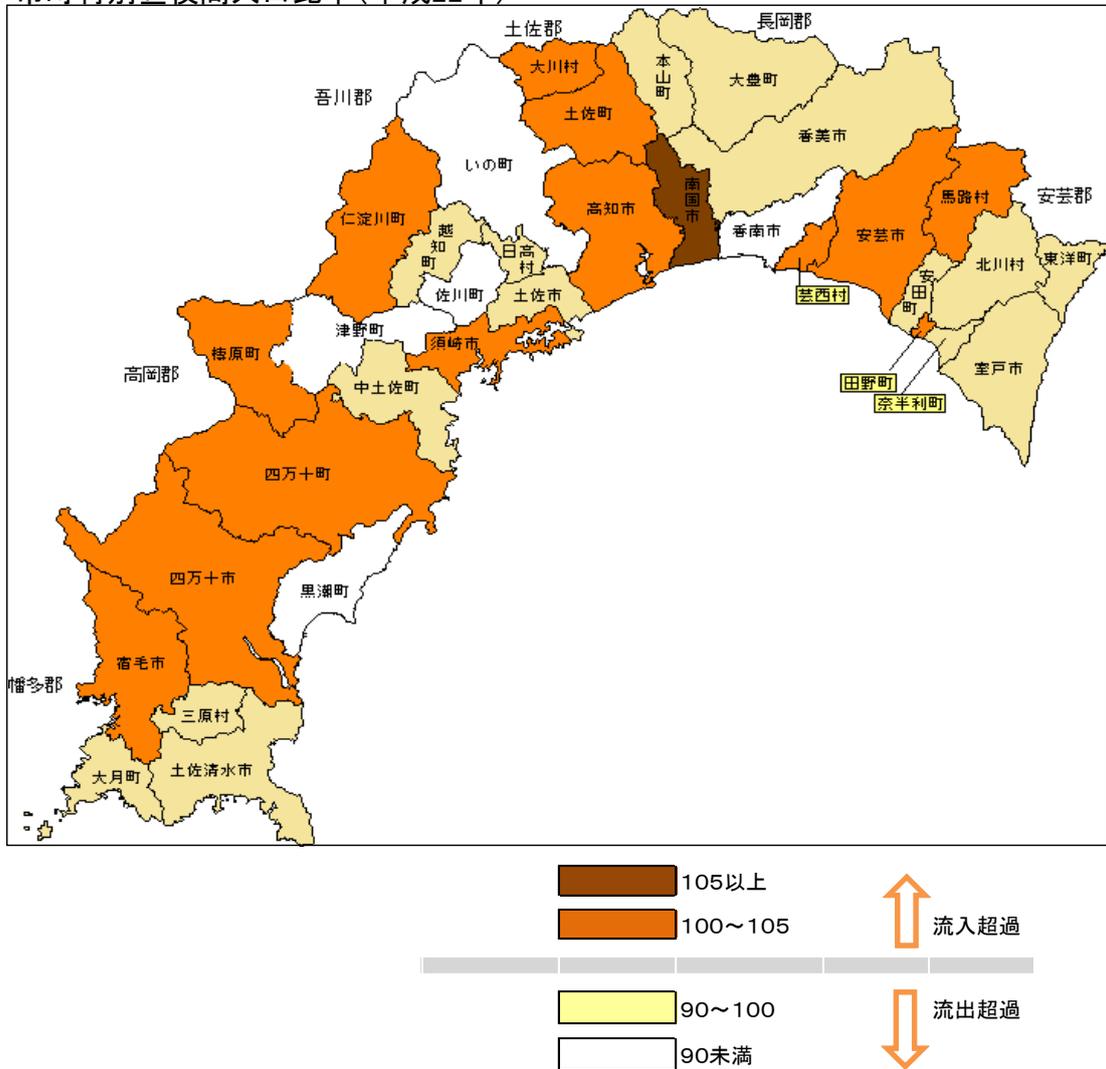
順位	1位	2位		4位	5位
市町村名	香南市	南国市	芸西村	佐川町	高知市
昼間人口増加率	0.7	△ 1.9		△ 2.0	△ 2.2

(2) 昼夜間人口比率

表1-4 市町村別昼夜間人口比率(%)

順位	1位	2位	3位	4位	5位	～	30位	31位	32位	33位	34位
市町村名	南国市	馬路村	田野町	大川村	須崎市		黒潮町	佐川町	津野町	香南市	いの町
昼間人口増加率	105.5	104.7	104.4	103.9	103.7		89.9	89.2	89.0	88.1	86.6

市町村別昼夜間人口比率(平成22年)



2. 就業者・通学者人口

本県の15歳以上の就業者・通学者は370,454人となっています。そのうち従業地・通学地が自宅以外の通勤・通学者は309,883人で平成17年(338,325人)と比べて28,442人の減少(8.4%減)となっています。

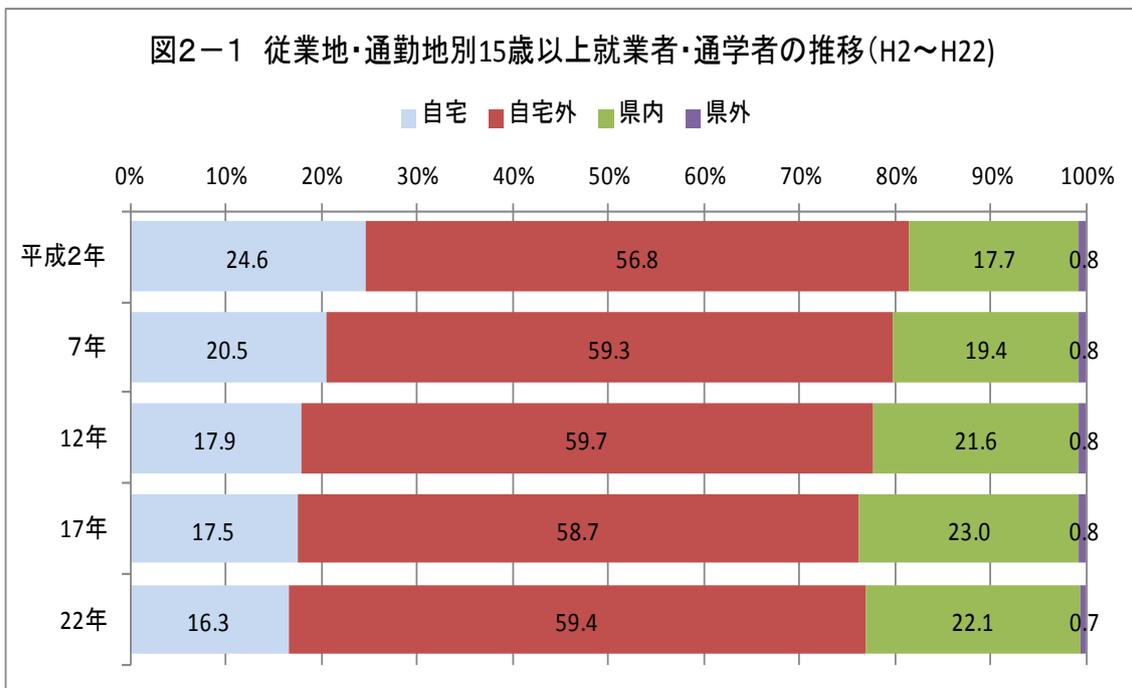
- ・そのうち、自市町村(常住地である市町村)内で通勤・通学者は220,095人で、就業者・通学者の59.4%を占めています。
 - ・他市町村(常住地ではない市町村)への通勤・通学者は89,788人で、就業者・通学者の24.2%を占め、平成17年と比べ8,040人(8.2%)減少しています。
- また、県外の通勤・通学者は2,731人(0.7%)となっています。

表2-1 常住地による従業地・通学地別就業者・通学者数(15歳以上) (平成12年~22年)

従業地・通学地	平成12年		平成17年		平成22年	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
就業者・通学者	438,101	100.0%	409,873	100.0%	370,454	100.0%
自宅で従業	78,242	17.9%	71,548	17.5%	60,539	16.3%
通勤・通学者	359,859	82.1%	338,325	82.5%	309,883	83.6%
自市町村	261,576	59.7%	240,497	58.7%	220,095	59.4%
他市町村	98,283	22.4%	97,828	23.8%	89,788	24.2%
県内	94,924	21.6%	94,478	23.0%	81,951	22.1%
県外	3,359	0.8%	3,350	0.8%	2,731	0.7%
就業者	393,820	100.0%	370,395	100.0%	335,775	100.0%
自宅で従業	78,242	19.9%	71,548	19.3%	60,539	18.0%
通勤者	315,578	80.1%	298,847	80.7%	275,213	82.0%
自市町村	231,180	58.7%	214,012	57.8%	197,502	58.8%
他市町村	84,398	21.4%	84,835	22.9%	77,711	23.1%
県内	81,354	20.6%	81,896	22.1%	70,862	21.1%
県外	3,044	0.8%	2,939	0.8%	2,342	0.7%
通学者	44,281	100.0%	39,478	100.0%	34,679	100.0%
自市町村	30,396	68.6%	26,485	67.1%	22,593	65.1%
他市町村	13,885	31.4%	12,993	32.9%	12,077	34.8%
県内	13,570	30.7%	12,582	31.9%	11,089	32.0%
県外	315	0.7%	411	1.0%	389	1.1%

(注) 平成22年の他市町村の数は県内、県外の就業、通学者「不詳」を含むため内訳の県内、県外の計とは一致しない。

図2-1 従業地・通勤地別15歳以上就業者・通学者の推移(H2~H22)



3. 利用交通手段 （（注）この項目は、10年ごとに集計される項目です）

従業地又は通学地までの利用交通手段別にみると、「自家用車だけ」の利用者が182,417人（58.9%）と最も多く、次いで「自転車だけ」の利用者が50,677人（16.4%）、「オートバイだけ」が21,144人（6.8%）となっています。

前回調査（平成12年）と比べると、利用者割合で「自家用車だけ」が3.6ポイント、「鉄道・電車だけ」が0.2ポイント、「鉄道・電車及び自家用車」が0.1ポイント増加したのに対して、「自転車だけ」が1.1ポイント、「オートバイだけ」が1ポイント減少などとなっています。

表3-1 常住地による利用交通手段別15歳以上通勤・通学者数(平成12年・22年)

利用交通手段	15歳以上通勤・通学者(人)		割合	
	平成12年	平成22年	平成12年	平成22年
総数	359,859	309,883	100.0%	100.0%
徒歩だけ	24,043	18,832	6.7%	6.1%
鉄道・電車だけ	6,370	6,115	1.8%	2.0%
乗合バスだけ	6,365	3,426	1.8%	1.1%
勤め先・学校のバス	2,477	1,789	0.7%	0.6%
自家用車だけ	198,899	182,417	55.3%	58.9%
ハイヤー・タクシーだけ	717	287	0.2%	0.1%
オートバイだけ	28,098	21,144	7.8%	6.8%
自転車だけ	62,840	50,677	17.5%	16.4%
鉄道・電車及び乗合バス	940	482	0.3%	0.2%
鉄道・電車及び自家用車	1,009	1,075	0.3%	0.3%
鉄道・電車及びオートバイ又は自転車	3,995	3,071	1.1%	1.0%
乗合バス及び自家用車	723	397	0.2%	0.1%
乗合バス及びオートバイ又は自転車	1,890	957	0.5%	0.3%
鉄道・電車、乗合バス及びオートバイ又は自転車	307	167	0.1%	0.1%
その他	17,416	12,657	4.8%	4.1%

(注)総数には、利用交通手段「不詳」を含み、内訳の計と一致しない。